HOKUSEI@COM

2024
JANUARY
vol. 36

04 OB&OGインタビュー／卒業生は、いま。
目指すのは誰もが安心して生きられる世界
コマツ サステナビリティ推進本部
地雷除去プロジェクト室 伊藤 準矢さん

05 学生たちの素顔
廃棄野菜に命を吹き込む 染め物プロジェクトに挑戦
文学部 英文学科3年 治田 桜佳 さん

06 先生たちのその素顔
「環境＋経済」の視点で持続可能な社会を考える
経済学部 経済学科 藤井 康平 専任講師

07 学生広報委員 企画ページ
キタボシ×HOKUSEI@COM
大学生協のご紹介

08 HOKUSEI INFORMATION 北星学園大学からのお知らせ
●「社会福祉学科」のWEBサイトをリニューアルしました
●コラボジェラートを販売中！
まちがいさがしクイズ
北星学園大学オリジナルグッズが当たる！

02-03
特集：学生主体の学びのプロジェクト
「つくる」「たべる」「まなぶ」をつなぐ
食への感謝プロジェクト

文学部 心理・応用コミュニケーション学科 4年 松田 麻愛 さん
文学部 心理・応用コミュニケーション学科 4年 小笠原 実沙 さん
文学部 心理・応用コミュニケーション学科 4年 杉田 実優 さん

Hokusei Gakuen University
北星学園大学
北星学園大学短期大学部

「つくる」「たべる」「まなぶ」をつなぐ食への感謝プロジェクト

北星学園大学には、学生が主体的に取り組む学びのプロジェクトを支援する助成制度があります。この制度を活用した３人の学生が、農業を軸に「つくる」「たべる」「まなぶ」をつなぐプロジェクトを実現させました。自分たちの手で学びの種を蒔き、育み、大輪の花を咲かせた３年間のチャレンジをご紹介します。

文学部
心理・応用コミュニケーション学科４年
杉田 実優（すぎた みゆ）さん
（札幌国際情報高等学校出身）

文学部
心理・応用コミュニケーション学科４年
松田 麻愛（まつだ まあい）さん
（北見柏陽高等学校出身）

文学部
心理・応用コミュニケーション学科４年
小笠原 実沙（おがさわら みさ）さん
（札幌藻岩高等学校出身）

▶2021.10.20
食への感謝プロジェクト第一弾
学内イベントで規格外野菜への認知を広げよう！

松田さん、小笠原さん、杉田さんが出会ったのは２年生の時。必修科目「フィールド実習」で長沼町・駒谷農場の農業実習に参加したことがきっかけでした。畑の雑草取りや農作物の収穫、選別、袋詰めなどの作業を初めて体験した３人。農業の大変さやありがたみを実感すると同時に、形や大きさなどが不揃いな「規格外野菜」の存在を知り、胸が痛んだといいます。「せっかく農家さんが一生懸命育てた野菜なのに、規格に合わないというだけで廃棄されてしまうのはもったいない！」。実習を終えた３人は科目担当の石川悟教授に相談。「食への感謝プロジェクト」が動き出しました。

空き時間や放課後を利用して話し合いを重ねた末、一人暮らしの学生に規格外野菜を無償配布する企画が決定。ポスターやチラシを作成し、学生会館の一角を借りてイベントを開催しました。当日は野菜を提供してくださった駒谷農場さんからのビデオメッセージも上映。会場を訪れた学生から「見た目が悪くても料理すればおいしく食べられる」「農家さんに感謝したい」などの声が寄せられました。

▶2022.11.20
食への感謝プロジェクト第二弾
6次産業化で規格外野菜を消費者へ届けよう！

規格外野菜の無償配布イベントは無事終了。大きな達成感を味わった３人でしたが、同時にこう感じたのです。「規格外野菜を知ってもらうことはできたけれど、無償配布だけでは農家さんの利益にならない」と。もっと根本的な課題解決につながる方法はないか――次のフェーズを見据えて、食への感謝プロジェクト第二弾が動き出しました。

３年生になって松田さんと小笠原さんは寺林暁良准教授のゼミに所属。杉田さんは別のゼミに分かれましたが、毎週のように話し合いが続けられました。そして、規格外のじゃがいもを冷凍マッシュポテトに加工して販売する企画が誕生。本学が設置する「『学び』のための学生プロジェクト助成制度」

左：農業実習に参加するまで話したこともなかった3人。これが運命の出会いでした
右：形は不揃いでも味は変わらないのに市場に出回らないのはもったいない！

左：無償配布イベントでは規格外野菜の存在を実感してもらうため、学生自身の手で野菜を袋詰めしてもらいました。
右：ポスターも自分たちで制作。イベントの企画・運営はさまざまなスキルが身につきます。

左：長沼道の駅マオイの丘公園で開催した販売会は大成功！数々の苦労が報われました。
右：冷凍マッシュポテトは時短やアレンジに役立つことから「味方のポテト」と命名。パッケージデザインは本学経済学部経営情報学科4年の道下希花さんの作品です。

左：1day農業体験実習では自分たちの体験を高校生に還元。駒谷農場さんには3年越しでお世話になりました。
右：規格外のじゃがいもと玉ねぎで作ったカレーライスは格別！農家さんの苦労と3人の情熱はきっと高校生に届いたはず。

を活用して資金調達を行い、寺林准教授をはじめ各分野の専門家にアドバイスを受けながら、規格外野菜の付加価値向上を目指す6次産業化プロジェクトがスタートしました。

レシピ作成、パッケージデザインやネーミング、商品の製造や販売などに協力していただく各施設との調整、食品の加工・販売に必要な資格取得や保険加入、保健所の許可申請など、すべてがわからないことだらけ。本格的に製造を開始した直後に塩を入れ忘れ、やむなく販売延期という大失敗もありましたが、販売当日は用意した70個が約2時間で完売。購入された方々から「マッシュポテトは調理が楽で便利」「フードロス削減にもつながる良い取り組み」「またこのような企画があれば買いたい」などの声が寄せられ、3人にとって大きな励みとなりました。

▶2023.9.19
食への感謝プロジェクト第三弾
生産者と消費者をつなぎ、農と食の未来へ！

食への感謝プロジェクト第二弾を終えて、3人は考えました。「今回の試みがたくさんの人とつながることで実現できたように、農家さんが抱える課題解決にもたくさんの人とのつながりが必要だ」と。自分たちが農業実習をきっかけに規格外野菜の課題に気づいたように、もっと多くの人に農業の「いま」を知ってもらえれば、課題解決の一助になるかもしれない——4年生になった3人が企画したプロジェクト第三弾は高校生を対象とした「1day農業体験実習」。当日は8名の高校生が参加し、駒谷農場で農作業や生産者との交流、規格外野菜を使った調理などを行いました。3人が生産者と消費者の架け橋となり、規格外野菜の問題を若い世代に投げかけた今回の企画は、3年間にわたるプロジェクトの集大成。この経験は就職活動でも強い武器となり、松田さんは士幌町農業協同組合、杉田さんは食品加工メーカー、小笠原さんは食品卸会社にそれぞれ内定しました。3人の夢はいつか再び全員が集結し、食への感謝プロジェクトをビジネスモデル化すること。畑で見つけた学びの種は、いつかきっと大きな実を結ぶに違いありません。

▶プロジェクトを振り返って

松田さん：イベント企画も商品開発も、人のつながりなしには実現できませんでした。プロジェクトの後継者となる後輩も現れ、私たちの取り組みが次世代につながればうれしく思います。今後は農業先進地の士幌町で、生産者と消費者の橋渡し役を務めていきたいです。

杉田さん：3人は性格も得意分野もバラバラですが、だからこそ互いに補い合ってプロジェクトを実現させることができたのだと思います。学生生活のほとんどを注ぎ込んだ取り組みが将来の仕事にもつながり、自信を持って社会への第一歩を踏み出していけそうです。

小笠原さん：第二弾はすべてが手探りで、何度も壁にぶつかりました。数え切れないほど失敗もしたけど、失敗したおかげで多くのことを学び、第三弾に活かすことができました。失敗を恐れずにチャレンジする姿勢は、社会人になっても大切にしたいと思います。

寺林准教授：フィールドワークを重視する心理・応用コミュニケーション学科においても、今回のプロジェクトは極めて大きな成果を残した事例となりました。近年、自ら実践して問題を検証する「アクションリサーチ」という調査手法が注目されていますが、本プロジェクトはその好例です。大学の活動は卒業後の継続が課題ですが、活動を引き継ぐ後輩によって研究のバトンが継承されていくのではと期待しています。

OB&OG interview 卒業生は、いま。

目指すのは地雷の被害ゼロ そして誰もが安心して生きられる世界

世界には、戦争下に残された対人地雷に今なお苦しむ地域が数多く存在します。本学卒業生の伊藤さんは、世界的な建設機械メーカー〈コマツ〉が進める地雷除去プロジェクトの一員として広報活動などを積極的に推進。「生まれた環境のせいで希望を失う人々がいる世界はフェアじゃない」という強い思いのもと、現代社会の課題に向き合う伊藤さんにお話を伺いました。

コマツ　サステナビリティ推進本部
地雷除去プロジェクト室
伊藤 準矢（いとう じゅんや） さん
2006年3月 文学部英文学科卒業
（札幌光星高等学校出身）

カンボジアの未来のために地雷に挑む

コマツは2008年よりカンボジアなどで地雷除去に取り組んでいます。私は世界の紛争や貧困などの問題に興味があり、この活動に携わりたくて入社しました。ところが配属されたのは国内営業。「こんなはずじゃなかった…」と激しく落ち込みましたが、その後さまざまな部署を経て建設機械のマーケティングを幅広く学び、10年かけて夢をかなえました。

現在は日本と現地を行き来しながら、対人地雷除去に関する機械の輸送や管理などを行っています。地雷原の安全化のみならず、道路や水路などのインフラ整備、小学校の建て替えなどの総合的な復興支援により、住民の皆さんが希望をもって生活できる土地を作ることが私たちのミッション。こうした活動を広く知っていただくために、ウェブサイトや出前授業などによる情報発信にも力を入れています。

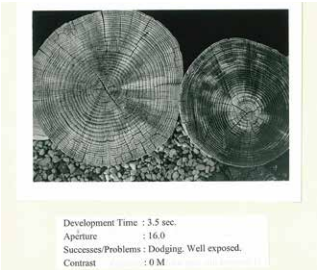
若い世代が世界へ目を向けるきっかけに

現地の方々から喜びや感謝の声をいただくたび、コマツの「ものづくり」の技術が安全で安心できる「むらづくり」につながっていることを実感してうれしくなります。また、出前授業でこの活動を日本の若者たちに知ってもらうことにも強いやりがいを感じています。未来を担う世代の一人ひとりが自分の将来や生き方、世界の出来事について考えるきっかけになれば、これ以上に幸せなことはありません。地雷だけでなく、現代社会は実に多くの課題を抱えています。世の中が誰にとってもフェアな状態に近づくためにはどうしたら良いのか、今後もさまざまな社会課題に目を向けながら仕事に取り組んでいきたいと考えています。

学生時代の経験は今の財産であり原動力

高校時代から英語が好きでしたが、本学で英語力や海外経験に秀でた仲間に出会い、大いに刺激を受けました。多角的に英語を学べる環境は非常にありがたく、中でも異文化コミュニケーションの重要性を学べたことは大きな財産となり、今の仕事に役立っています。米国留学中に出会った友人も忘れられません。両親がメキシコからの不法移民で生活が苦しく、その後大学を辞めてしまったと知った時は「こんなのフェアじゃない」と強い憤りを覚えました。その思いは、今も私の原動力となっています。

母校の後輩をはじめとする若い世代の皆さんが、自分の意思で物事を選択できる状況にあるのであれば、それは幸せなことです。何が正しい選択かは誰にもわかりません。重要な局面で考えに考え抜いて皆さんが後悔のない人生を送ることができるよう、心から願っています。



米国留学中は英語の習得に加え、さまざまな経験や知見を得ることを目指した。「Photography」の授業もそのひとつ。

コマツグループ社員に向けて、対人地雷除去機がカンボジアの地雷原で稼働するようすを見学するスタディーツアーを企画。

Our students : A closer look
学生たちの素顔

廃棄野菜に命を吹き込む染め物プロジェクトに挑戦

文学部 英文学科3年
治田（はるた） 桜佳（おうか） さん
（札幌静修高等学校出身）

ゴミにもきっと価値がある！ そんな思いから、廃棄野菜で染めたアイテムのオンラインショップ「DieDye（ダイダイ）」をオープンさせた治田さん。自らものを作って売る経験は、治田さんの中に潜んでいたビジネスマインドを目覚めさせるきっかけとなったようです。

野菜の茹で汁からエコな染め物を発案

高校2年の時、オーストラリア留学中に同世代の若者がエコバッグやマイボトルを当たり前に使う姿を見て、自分も環境保護のためにできることはないかと考えるようになりました。コロナ禍で在宅中に料理をするようになり、野菜の茹で汁に色が付くのを見て廃棄野菜を染料にすることを発案。大学で経営論を学んで起業意欲に火がつきました。大手スーパーや生産農家、食品製造業者の方々に玉ねぎの皮や出荷期限切れの野菜、コーヒーの出がらしなどを提供していただき、草木染めのハンカチやエコバッグを製作。2022年11月にオンラインショップを立ち上げました。

エコバッグは玉ねぎの皮、ハンカチは黒千石大豆の茹で汁で染色。自作のブランドロゴにも元美術部のセンスが光ります。

ビジネスを成し遂げた経験が自信になった

商品製作の工程では思い通りに染まらなかったり、洗濯すると色落ちしてしまったり、失敗は数え切れません。マーケティング面でも課題が多く、試行錯誤の連続です。それでもSNSなどで口コミが広がり、2カ月で4万円を売り上げることができました。オンラインショップを開設した時は「売れなかったらどうしよう」と不安でいっぱいでしたが、高校時代の友人が真っ先に購入してくれたり、「知り合いだからではなく、価値ある商品だから買ったんだよ」と言ってくださる方がいて、大きな励みになりました。材料調達の交渉力も養われたし、「自分で作ったものを売ってお金を手にする」というプロセスを成し遂げた経験は大きな自信になりました。

価値創出の視点を仕事づくりに活かしたい

自分でものを作って売る面白さの一方で、事業を継続・拡大していくことの大変さを痛感したのも事実。ビジネスを手がけるにはまだまだ未熟なので、大学卒業後は一般企業に就職して、社会人としての経験値を高めたいと考えています。自分の強みを活かせる仕事に出会えたらとことん極めてみたいし、やりたいことが見つかれば起業してみたいという気持ちもあります。ものづくりも仕事づくりも、独自の着眼点でゼロから価値を生み出すプロセスは同じはず。今は広告業界の企画営業に興味津々です！

▼DieDye WEBサイトURL
https://diedye.official.ec/

Featured Faculty Member

先生たちのその素顔

経済学部 経済学科 藤井（ふじい） 康平（こうへい） 専任講師

PROFILE

山口県下関市出身。2005年東京大学教養学部総合社会科学科卒業。2013年東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻博士課程単位取得満期退学。一橋大学大学院経済学研究科リサーチアシスタント、東京都環境科学研究所研究員などを経て2022年より現職。

「環境＋経済」の視点で持続可能な社会を考える

■学びの遍歴を経てたどり着いた環境経済学

高校時代は理系でしたが受験を機に文転。当時はITバブルまっただ中で金融業界を志し、経済学が学べる東京大学文科二類に入学しました。しかし、いざ勉強を始めたら「経済＝お金」という考え方に疑問が湧いてきたのです。自分にとっての「お金で計れない価値」を考えた末に行き着いたのが「環境」というキーワードでした。その後、社会学の観点から環境問題を考えようと教養学部の相関社会科学コースに進学しましたが、環境と経済と地域を結び付けた研究に興味関心が移り、経済学や政治学を中心に学びました。大学院を出た後は一橋大学で自然資源に依拠した一次産業と地域の持続可能性を考えるプロジェクトに参加。東日本大震災以後は再生可能エネルギーを活用した地域再生や、地方自治体の環境政策決定過程の分析を主要テーマとしています。

本来ならば、専門分野を一つに決めて研究に取り組むのが研究者のあるべき姿かもしれません。しかし私は多方面に興味関心を持ってしまいやすい性格で、結果としていろいろな分野を巡り歩くことになりました。一見遠回りに見えますが、今となっては環境問題を多様な視点で追究するための学際性を養う上で必要なプロセスだったと思っています。

■北海道にはお金では計れない豊かさがある

私の専門である環境経済学は、経済学を使って環境問題の解決を目指す学問です。ゼミでは学年ごとに課題を設定し、北海道初の海のごみ箱「Seabin（シービン）」を活用した海洋ごみの削減と有効活用、雪室を活用した規格外野菜のアップサイクル、循環経済を軸とした地域活性化などに取り組んでいます。学生たちには環境問題を一時的なトレンドとして捉えるのではなく、環境の世紀を生きるひとりとして、環境を経済学の視点で読み解くことの意味を考えてほしいと思っています。私のゼミは授業時間外の活動も多いので行動的な学生が多いのですが、全体的に北星の学生はおとなしくて真面目な印象ですね。少子高齢化が進む中、若い世代の行動力にも期待しています。北海道暮らしも2年目を迎えましたが、東京での生活に比べると快適です。満員電車のストレスはなく、空も広くて気持ちいい。道産食材が当たり前に食卓に並ぶ毎日に、お金では計れない豊かさを実感しています。この豊かさを守り続けるためには、地域の中で経済やエネルギーを循環させる仕組みが不可欠です。北海道の持続可能性を追求する上でも、環境経済学はきっとヒントをもたらすことでしょう。

趣味は旅行。電車に乗って雄大な景色を見に行くのが好きです。写真は静岡県にある大井川鉄道の奥大井湖上駅です。

子どもが生まれてからは、休みの日は一緒に遊ぶことが多くなりました。我が子の無邪気なようすに癒されています。

本学WEBサイトコンテンツ「研究者ストーリー」で藤井先生のインタビュー動画を閲覧できます。
https://entry.hokusei.ac.jp/scholar/fujii/

学生広報委員 企画ページ
キタポッ×HOKUSEI@COM

今こそ！北星に行こう!!!!

北星学園大学には購買や書籍店、食堂など、学生・教職員の生活をサポートする施設がありますが、これらの運営を担う「大学生協」のことはご存知でしょうか。今回は大学生協がどのように機能しているのかその実態に迫るほか、一般のみなさんも利用できる食堂やカフェをご紹介します！

Q.大学生協って？

大学生協のロゴマーク

北星学園生活協同組合
購買店
森下（もりした） 篤（あつし） 店長

大学生協とは大学の学生や教職員等を組合員とする生活協同組合の一種です。「キャンパスに根付く、実のなる樹」を目指し、助け合いの精神により食・学び・生活などのあらゆる方面から組合員を支えています。多くの大学に設立されており、北星学園大学には「北星学園生協」があります。北星学園生協では購買や食堂で「食」を提供するだけでなく、書籍販売や資格講座等で「学び」を促進し、共済保険や住宅紹介で「生活」を支えるなど、大学生活に欠かせないさまざまな取り組みをしています。北星学園生協・購買店の森下店長は「空き時間や放課後にたくさん来て、気軽に相談もできるような居心地の良い場所と思って利用してもらえるとうれしい」と、生協を利用する学生への思いを語ってくださりました。

キッチンカー

北星学園生協はフードロス対策や安心・安全な素材の利用など、環境に配慮したお店を誘致しています。年に数回、キャンパス内にキッチンカーが登場する日には、多くの学生が行列を作ります。

食堂に行こう！

食堂で提供される料理の主要食材は北海道産がほとんど。また毎月期間限定・数量限定メニューが提供されます。メニューは、投票によって選ばれた商品を提供するなど利用者の声も反映しています。食堂は平日11:00～13:30までご利用いただけます。ぜひお気軽に！

カフェに行こう！

「NORTH STAR café Sara」はここだけのランチメニューに加え，スイーツ、コーヒーなども提供しています。商品はテイクアウトも可能です（一部除く）。落ち着いた雰囲気のなか休息しませんか。カフェは10:00～14:00（食べ物の提供は13:30頃）までご利用いただけます。

＊大学生協公式 SNS では、当日限定のランチメニューやフェアメニューについて掲載されています。

◀X（旧 :Twitter）北星学園生協 @hokuseicoop
Instagram 北星学園生活協同組合 @hokuseicoop▶

Q.学生委員会ってなに？

北星学園生活協同組合
学生委員会
社会福祉学部
福祉臨床学科 3年
松田（まつだ） 夏輝（なつき） 委員長

大学生協の理事会のもとに設置される組織委員会のこと。大学生協の組合員の学生が委員になり、魅力ある大学生活を実現するためにさまざまな活動をしています。

【活動例】

●学食のメニュー投票や購入金額に応じてくじが引ける抽選会など、組合員が楽しめるイベントを企画！

●アルコールパッチや自転車点検といった共済活動も行っている！

●新入生交流イベントの開催など、新入生や高校生に対する支援にも取り組んでいる！

生協学生委員会は上記の活動以外にも、過去には「生理の貧困」といった社会的な問題にも取り組み、組合員の声を受けて期間限定で生理用品を配布するなどの活動も行っていました。委員長の松田さんは「自身も組合員である私たちならではの視点や意見が反映され、私たち自身の手で大学生協を『創っていく』ことができるところが生協学生委員会のやりがい」と活動の魅力を語ってくれました。

HOKUSEI INFORMATION 北星学園大学からのお知らせ

TOPICS

2023年4月、社会福祉学部に新しい学科が誕生！

「社会福祉学科」のWEBサイトをリニューアルしました

2023年4月に社会福祉学部に誕生した新しい学科「社会福祉学科」のWEBサイトをリニューアルしました。社会福祉学科は、60年の伝統と実績を持つ本学の社会福祉学教育・研究に基づき、人と人がつながり合い、支え合う地域・社会の創造に貢献できる人材の育成を目指しています。学科サイトでは、学びの特色や育成する人材像、学科教員が執筆するトピックスなどを紹介しています。ぜひご覧ください。

https://www.hokusei.ac.jp/social-welfare/

GELATO LicoLico×経営情報学科西脇ゼミ

コラボジェラートを販売中！

経営情報学科 西脇隆二ゼミは、恵庭に本店を構える人気ジェラートショップ「GELATO LicoLico」と共同で新フレーバー「サングリア」を開発しました。サングリアは2023年8月に開催された「北海道アイスクリームフェスタ」での先行販売で好評を博し、9月より丸井今井札幌店で常設販売しています。4種のベリーを使ったひんやりおいしいジェラートを、暖かいお部屋でぜひお楽しみください。

グレープジュースをベースに4種のベリーをミックスした、濃厚な甘みと酸味が調和した一品。
※アルコールは入っていません。

●販売場所
GELATO LicoLico
丸井今井札幌店
札幌市中央区南1条西2丁目
大通館地下1階

●営業時間
10:30～20：00

●販売価格（税込）
シングル 440円
ダブル　550円
トリプル 660円

北星学園大学オリジナルグッズが当たる！

まちがいさがしクイズ

北星学園大学の構内を紹介する2枚の写真を見比べて、右の写真の5個の間違いを探してください。Webやハガキで応募すると、抽選で10名様に北星学園大学オリジナルグッズが当たるチャンス！

［今号のまちがいさがしスポット］
北星学園生協（大学会館1F）

北星学園生協は食料品や文房具、書籍の販売、食堂・カフェの運営などをしており、多くの学生・教職員に利用されています。本誌7ページの「今こそ！北星に行こう!!!!」で特集していますので、ぜひ併せてご覧ください。

★応募要項
下記応募フォームまたはハガキにて以下の内容をご記入の上、下記送付先までご応募ください。
①問題の答え（まちがい5個）　②郵便番号　③住所　④氏名
⑤電話番号　⑥HOKUSEI@COMのご意見・感想
送付先：〒004-8631　札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
北星学園大学　HOKUSEI@COM「まちがいさがし」係
■応募締切日：2024年3月2日（土）必着
■応募フォーム：https://www.hokusei.ac.jp/hokuseicom_quiz/

★正解発表
『HOKUSEI@COM』37号（2024年8月発行予定）に掲載いたします。

※ご応募は1号につき、おひとり様1回までとさせていただきます。
※正解者の中から厳選なる抽選の上、当選者を決定いたします。当選の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。
※お送りいただいた情報は賞品の発送のみを目的に使用させていただきます。
※ご住所・転居先の不明等で賞品をお届けすることができない場合は、当選を無効といたします。

前号の正解

Hokusei Gakuen University
北星学園大学
北星学園大学短期大学部

発行／広報委員会
〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
TEL 011-891-2731（代表）
URL https://www.hokusei.ac.jp
E-mail koho@hokusei.ac.jp

本誌制作に伴う取材・撮影は、新型コロナウイルス感染予防策をとった上で実施しています。

VEGETABLE OIL INK